

# 屋敷

**玖島城跡**  
1599年に初代藩主・大村喜前が築き、12代藩主純熙まで270余年、政治の中心になった城跡です。本丸跡には、現在大村神社があります。(地図:K-10)

**大村藩御船蔵跡**  
主に藩主専用船を格納した船蔵で、良好な状態で保存されており、極めて貴重な遺構です。海と密接な関わりがあった大村藩や玖島城の特徴を示しています。(地図:L-10)

**本経寺**  
大村藩主大村家墓所(国指定史跡)  
本経寺は、大村藩初代藩主・大村喜前が、キリスト教禁止後に建てた日蓮宗の寺院です。歴代藩主を祀った6mを超える巨大な墓塔が建ち並び、キリスト教から仏教へと転換した大村藩の宗教政策を表しています。(地図:A-9)

**五教館御成門**  
藩主が藩校五教館への出入りに使用しました。この五教館には農民や町民も入学できました。(地図:J-8)

**浅田家老屋敷跡**  
浅田氏は、大村家初代直造に従い大村に入国した七士の筆頭といわれた朝長氏の孫で、代々重臣を務めました。石垣・堀・庭園の広大な屋敷は、社大当時の面影を残しています。(地図:H-8)

**針尾家老屋敷跡**  
江戸時代の大村藩家老、針尾氏の屋敷跡です。現在屋敷の東側に残っている家屋は、家紋入りの鬼瓦を使った入母屋瓦葺の立派な長屋で、若党や中間など家臣の住居として使われていました。(地図:H-8)

# ようこそ大村へ アクセスマップ

**空の交通 (空路 JAL/ANA/SNA/ORC)**

東京(羽田).....約1時間40分	長崎(空港).....約30分	五島(名古屋(中部)).....約1時間20分	春巻(大坂(伊丹)).....約1時間10分	対馬(大坂(関西)).....約1時間20分	ソウル(仁川).....約1時間30分	上海(浦東).....約1時間30分
--------------------	-----------------	-------------------------	------------------------	------------------------	---------------------	--------------------

**陸の交通**

マイカー 福岡	大村 I.C.	約1時間30分
高速バス 天神(センター)	JR 大村駅	約1時間40分
J R 博多駅	かもめ(東線あり) 大村駅	最速約1時間55分

**海の交通**

ハウステンボス	長崎空港	約50分
---------	------	------

お問い合わせ  
大村市観光振興課 電話 0957-54-1111 FAX 0957-54-7135  
http://www.omura-navi.jp/ kankou@city.omura.lg.jp

(一社)大村市観光コンベンション協会 電話 0957-52-3606 FAX 0957-52-3652  
http://www.e-oomura.jp/top.html

助成:(一財)空港環境整備協会

大村観光ナビ 検索 よって行かんねおおむら 検索

# 歴史散策マップ

## おおむら

長崎県・大村市

# 大村の武家

**旧楠本正隆屋敷**  
幕末に活躍した楠本正隆が建てた屋敷です。当時の歴史に関する展示のほか、建物や石垣、庭園、家財道具など屋敷全体がほぼ当時のまま残る貴重な武家屋敷です。(地図:G-6)

**大村藩勤王三十七士の碑**  
護国神社東側に建つ大村藩勤王三十七士の碑。大村藩を尊王倒幕運動に導く原動力となった藩士で、亡くなった順に碑が並んでいます。(地図:F-6)

**旧日融寺庭園**  
斜面を利用した枯山水の庭園で、東西50mに及び、400個以上の石を組み合わせた構成は見事で、江戸初期様式の石組庭園としては、傑出した造りとなっています。(地図:F-7)

**中尾元締役旧宅**  
大村藩勤王三十七士の一人、中尾元締の旧宅です。幼少の頃から大村純然の相手をつとめ、五教館、治養軒に学び、父とともに江戸にのびました。大村藩に帰った後、元締役・用人・作事奉行となり、明治政府の諸役を務め、玖島銀行の創設にも参加しました。旧宅には、殿様用の玄関、通用の玄関、勝手口、大広間、次の間などがあり天窓も造られていました。(地図:J-6)

**稲田家老屋敷跡**  
寛延3年(1750年)に元締役の稲田利左衛門から明治5年に大村藩勤王三十七士の一人、稲田又左衛門が転居するまでの122年間、稲田氏の屋敷だった場所です。現在、建物は残っておらず、高い石垣や堂々とした門の跡が残っています。(地図:I-6)

**寺島**  
大村家史料によると、大村市の祖先と藤原直澄が初めて大村に上陸した地が「寺島」です。船のとも綱を結んだという石が残っています。NHK大河ドラマ「龍馬伝」のロケ地にもなりました。(地図:P-10)

**長与専斎旧宅**  
初代衛生局長として近代医学制度の基礎を築いた長与専斎の旧宅です。市内片町にありましたが、現在は国立長崎医療センター内に建物の一部が移築され、専斎の雅号をとって「松香館」と呼ばれています。(地図:K-3)

**牟屋の坂**  
幕末、勤王派と佐幕派が争い、松林飯山が暗殺されたとき、藩庁において佐幕一味を逮捕した、数千人を投獄した「大村牢」があったところ。(地図:J-7)

# 武家屋敷通り

## 大村城下五小路

藩主の大村喜前は、慶長4年(1599)玖島城を築き、各地に住んでいた家臣を玖島城下に住ませ、城下町を形成しました。

**本小路武家屋敷跡**  
本小路は、玖島城の大手入口から、長さ約686mの大通りで、鉄道下ガードを通り抜けた正面の愛宕神社入り口付近まで続いていました。通りには大村藩会所・五教館・上級家臣の屋敷が並び、大村五郎兵衛・大村翁助など、幕末には14戸の屋敷がありました。

**外浦小路武家屋敷跡**  
外浦小路は、最初、西彼半島の外海地方の武士を住ませたので、その名があります。しかし、後には入り交り住居するようになりました。大村神社一の鳥居から南へ約679mで、産物役所、普請役所、内湯内練場があり、大村邦三郎、長崎文四郎などの12戸の屋敷がありました。

**小姓小路武家屋敷跡**  
小姓小路は、最初、藩主の側近小姓が住んでいました。牟屋坂の橋から、踏切を渡った突き当たりまで約623mです。長井兵庫や村田鉄斎など14戸の屋敷があり、現在も古い石垣が残っていて、武家屋敷の面影がしのべれます。

**上小路武家屋敷跡**  
最初は、尾の上小路と呼ばれ、後に「上小路」と呼ばれました。針尾九左衛門屋敷を経て、往還路(長崎街道)まで約1,050mあり、斎藤道場・浅田大学・松林飯山などの37戸の屋敷が続いていました。

**草場小路武家屋敷跡**  
春日神社前から袋町、片町に至る間、約260mあり、岩・木・長与道全など5戸の屋敷があり、そばには内田川が流れています。別名袋小路とも呼ばれました。

**五色堀**  
色とりどりの海石の石積みと漆喰で塗り固めた、大村地方独特の堀です。現在も武家屋敷街のどこどこに残っていますが、草場小路の五色堀が最も見応えがあります。

# 長崎街道

## ～鎖国下の江戸時代、情報や文化を海外から日本に、また日本から海外に伝えた唯一の道～

長崎街道は、江戸時代に長崎から小倉を結んだ街道です。鎖国の中、ヨーロッパとの唯一の窓口であった長崎に入った情報をいち早く江戸に伝え、また日本の情報を海外に伝えた街道です。市内を通る街道は全長15kmにわたり、本陣のある大村宿、鍛冶の町松原宿がありました。街道周辺には武家屋敷跡や神社仏閣など多くの文化財が残っています。

**歴史の道百選 鈴田峠**  
大村領と諫早領の境の峠で、当時の景観がよく残っている箇所として、文化庁「歴史の道百選」に選ばれています。駕籠立場所跡や藩境石などを見ることができます。

**藩境石**  
「鬼の足形石」とも呼ばれる大石が藩境にあります。

**駕籠立場所跡**  
大名などが往來した際に、籠をのろし休憩したといわれる石垣が、街道脇に残っています。

# 大村藩の偉人たち

**松林 飯山**  
大村藩勤王三十七士の思想的中心で、五教館では校長を務めた人物。慶応3年(1867年)正月に上小路の自宅前で何者かに暗殺されました。(地図:E-4)

**渡辺 清**  
大村藩勤王三十七士の中心人物。新政府軍参謀として江戸城無血開城の会談に立会い、新政府では福岡県令や福島県知事として活躍しました。(地図:J-8)

**渡辺 昇**  
大村藩勤王三十七士として明治維新に活躍した剣の達人。各藩が一つにまとまり助け合って行動しようと「一繩の業」を計画しました。(地図:K-5)

**楠本 正隆**  
明治時代に新潟県令、東京府知事となり、また衆議院議長も務め、近代都市計画に大きな功績を残しました。(地図:G-6)

**長与 専斎**  
日本の近代医学と医療制度を確立し、「衛生」という言葉をつくり出しました。祖父は天然痘の予防に活躍した長与俊達です。(地図:K-3)

**荒木 十歌**  
近代日本画壇を率いた人物。旧制大村中学校時代に素質が開花し、横山大観らと並び称され、日本画会幹事を務めました。(地図:K-5)

**長岡 安平**  
東京の芝公園をはじめ日本の数多くの都市公園などの設計に尽力。卓越した技術により明治・大正期の造園界をリードしました。(地図:J-8)

**石井 筆子**  
渡辺清の子で、前半生は女性教育向上の先駆者として、後半生は知的障害者の福祉と教育の草分けとして偉大な功績を残しました。(地図:J-8)

**黒板 勝美**  
近代歴史学者。日本史の基本資料を活字化した「国史大系」編さんなど、日本の歴史学に貢献しました。

**松原謙**  
松原鍛冶の歴史は古く、江戸時代後期には17軒の鍛冶屋があったといわれています。鎌や包丁は「松原鎌」、「松原包丁」のブランド名で親しまれています。

**深澤儀太夫勝清**  
初代深澤儀太夫勝清は紀州の海で修業し、帰郷後、鯨組を組織。九州の捕鯨業の草分けで、主に五島灘を中心に操業を行い巨額の富を得、その私財を投じて野岳湖の築造など、社会貢献を行いました。本町にあった屋敷は大名などが宿する本陣にあてられました。

**松原謙**  
松原鍛冶の歴史は古く、江戸時代後期には17軒の鍛冶屋があったといわれています。鎌や包丁は「松原鎌」、「松原包丁」のブランド名で親しまれています。

**濱田謹吾少年**  
濱田謹吾は、戊辰戦争の際、病の父に代わって北伐軍二番隊の鼓手として参戦し、15歳の少年です。秋田の角館の郊外刈羽野の戦いで戦死しました。謹吾の衣服の襟に縫い付けてあった「二葉と手れ水くれ待つ花の君がため」に咲けよこの時」という母チカ歌は、角館の人々に大きな感動を与え、今も吾往隊や謹吾少年のことが語り継がれています。この縁で、昭和54年(1979)大村市と角館町(現仙北市)は姉妹都市となり、活発な交流が続いています。

# 大村藩の偉人たち

大村宿から北に約8kmにある宿場跡です。本陣ではなく、茶屋などがあり、大村宿と彼村宿の間の休憩所となる宿場でした。八幡神社や旧松屋旅館など、当時の景観をよく残しています。

**大村宿**

大村宿は、現在の中央商店街本町アーケード沿いにあります。本陣や脇本陣、高礼場などがあり、本陣には、捕鯨で有名な深澤家の屋敷が使われました。(地図:B-E-8.9)

# 散策コース

## ぶらり歩いて1時間コース

- ①大村公園 (玖島城跡) → ②五教館御成門 → ③牢屋の坂 → ④中尾元締役旧宅 → ⑤小姓小路 → ⑥稲田家家老屋敷跡 → ⑦浅田家家老屋敷跡 → ⑧針尾家家老屋敷跡 → ①大村公園

## ぶらり歩いて2時間コース

- ①大村公園 (玖島城跡) → ②五教館御成門 → ③牢屋の坂 → ④中尾元締役旧宅 → ⑤小姓小路 → ⑥稲田家家老屋敷跡 → ⑦浅田家家老屋敷跡 → ⑧旧楠本正隆屋敷 → ⑩旧円融寺庭園 → ⑪草場小路 (五色堀) → ⑫針尾家家老屋敷跡 → ①大村公園

多良山系

# おおむら 歴史散策マップ



歴史観光ガイドの  
お問い合わせ(要予約)

大村市観光コンベンション協会内  
玖島城跡や武家屋敷  
通りをボランティアガ  
イドと一緒にゆっくり歩  
いて散策しませんか?

おおむら歴史観光  
ボランティアガイドの会

TEL.0957-52-3605  
FAX.0957-52-3652

## 大村公園

レンタサイクル  
(電動アシストつき自転車)  
花ちやり  
利用料金  
300円  
2時間以内

+延長料金(1時間につき200円)  
※保証金として、2,000円おあずかりします。  
ただし返却時にお返しいたします。  
利用時間/9:00~17:00  
(一社)大村市観光コンベンション協会  
☎0957(52)3605

## 主な交通機関の連絡先

大村ラッキータクシー	☎0957-52-2155
合同タクシー	☎0957-52-3161
さくらタクシー	☎0957-52-3101
竹松タクシー	☎0957-55-8439
松原タクシー	☎0957-55-8151
安田産業汽船	☎0957-54-4740
JR大村駅	☎0957-52-3600
長崎県営バス(大村ターミナル)	☎0957-53-4151
長崎空港	☎0957-52-5555

観光情報についてのお問い合わせ  
ホームページ&携帯サイト

大村市観光振興課  
TEL(0957)53-4111(代)  
E-mail:kankou@city.omura.lg.jp  
大村観光ナビ

(一社)大村市観光コンベンション協会  
TEL(0957)52-3605  
E-mail:kankou@e-oomura.jp  
よって行かんね おおむら